

故障の見分け方と処置方法

現 象	原 因	処 置 方 法
氷が削れない	フワフワに削れない	大ハンドルの回転速度を、3～5秒/周で一定に回す
		流水で氷表面がとけた状態で削る (白色の硬い氷だと粉のように削れます)
		氷押え調節ネジで氷を押す力を調節する (P.1、P.6のイラスト参照)
	氷が刃体に当たらない	氷を削る面の凸部分を溶かして平面にする
		氷受け板のガイドラインの内側に氷をのせる
	専用製氷器で作った氷を使ってない	専用製氷器で作った氷を使用する
氷ストッパーが空回りする	氷ストッパーが空回りする	小ハンドルを上下させて、氷ストッパーのビスを氷にくい込ませる
	氷が氷受け板に貼りついている	流水で氷表面がとけた状態で氷受け板にのせる
	氷ストッパーが下がってしまう	氷押え調節ネジが緩んでいる 付属の六角レンチを使用して、氷押え調節ネジを締め込む (P.1、P.6のイラスト参照)
小ハンドルの回転が重い	氷押え調節ネジの締め込みすぎ	付属の六角レンチを使用して、氷押え調節ネジを緩める (P.1、P.6のイラスト参照)
大ハンドル・小ハンドルが回らない	氷が氷受け板に貼りついて、氷ストッパーが固定されている	流水で氷表面がとけた状態で氷受け板にのせる
氷を削るときに安定しない	不安定な場所で使用している	平滑な場所で使用する

輸入発売元



貝印株式会社

〒101-8586 東京都千代田区岩本町3-9-5

お客様相談室 電話 (03) 3862-6410

受付時間 9:00～12:00・13:00～17:00

(土・日・祝日を除く)

<http://www.kai-group.com>

MADE IN CHINA

Kai (douse)

本格かき氷器 The Snow Cone Maker

取扱説明書



■製品仕様

品 名	Kai House 本格かき氷器
品 番	000DL-7521
外 形 寸 法	直径約22cm×高さ約44cm (最小形態)
質 量	約1.6kg(本体のみ)
付 属 品	専用製氷器、六角レンチ、 取扱説明書、レシピBook

■品質表示

本体、ハンドル、氷ストッパー	ABS樹脂(耐熱温度70度)
刃 体	ステンレス刃物鋼
主軸、氷ストッパービス	ステンレススチール
製 氷 器 本 体	ポリプロピレン (耐熱温度110度) (耐冷温度-20度)
製 氷 器 カップ	ポリエチレン (耐熱温度90度) (耐冷温度-30度) 満水容量1.0L (実使用650ml以下)

このたびは、Kai House 本格かき氷器をお買い上げいただき、ありがとうございました。
この製品を安全に正しく使用していただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき
はたらくし、注意事項を理解してください。またお読みになったあとは見やすいところへ大切に保管してください。

各部の名称とはたらき

本体

■ 大ハンドル

● 押え位置

氷を削るときは、この位置に手を添えて押えてください。

● 持ち運び

持ち運ぶときは、この部分に手を入れて持ち上げてください。

■ 氷受けフレーム

■ 左側板

■ 底板

ここに皿を置き、削れた氷を受け取ります。

■ グリップ

握って時計方向（右方向）に回転させると、大ハンドルと氷ストッパーがまわり、氷が削れます。

■ 小ハンドル

主軸・氷ストッパーを上下させます。時計方向（右方向）で上にあがり、反時計方向（左方向）で下にさがります。

■ 主軸

■ 氷ストッパー

氷を固定するために、下側にはビスがあります。

■ 氷受け板

製氷器で作った氷をガイドラインからはみ出さないようにして、ここに置きます。裏面には刃体がついてます。

■ 右側板

付属品

■ 製氷器 カップ

水を内側の線まで（650ml以下）入れた製氷器カップを、製氷器本体に入れます。

■ 製氷器 本体

水面側が透明度の高い氷を作ることができる製氷器です。

■ 六角レンチ

専用製氷器

■ 氷押え調節ネジ

氷を押さえる力の調整をします。付属の六角レンチでネジを締め込むと抑える力が強くなります。

■ 刃体受け台

■ 刃体



■ 取扱説明書

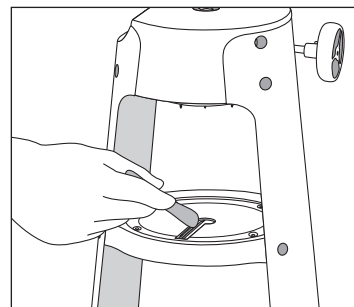


■ レシピBook

ご使用方法

6. 氷が削れなくなったり、途中で終了する場合は、小ハンドルを時計方向（右方向）に回して、氷ストッパーを一番上まで上げて、氷を取り出します

- 氷を全部削ることはできず、氷ストッパーと氷受け板の間に残ります。
 - 残った氷の上に、新しい氷を置いて削らないでください。氷が飛び出す恐れがあります。
 - 残った氷を取り出す時は素手で行わず、箸やへらなどを使用してください。
- 注意：刃先・氷ストッパーのビスに触れないように注意してください。

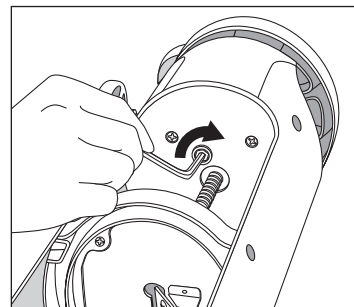


7. 使用後は、必ずお手入れをして、氷ストッパーを下げて収納する

- お手入れするときは、必ず手袋をはめて、刃体・氷ストッパーに触れないように注意してください。
- 氷受け板・氷ストッパー・底板の水分を柔らかい布で拭き取ってください。
- 氷受け板を拭くときは、必ず反時計方向に拭くようにしてください。時計方向に拭くとケガの原因になります。
- 十分乾かしてから湿気の少ないところに保管してください。

8. 長期間使用で削れ具合が悪くなった場合は、氷押え調節ネジを締め込む

- 刃体を固定しているネジを絶対に緩めないでください。
- 氷押え調節ネジを付属の六角レンチを使用して締め込むことで、刃体に氷を押す力が強くなり削り具合を調整することができます。目安として90°～180°程度を締め込んでください。

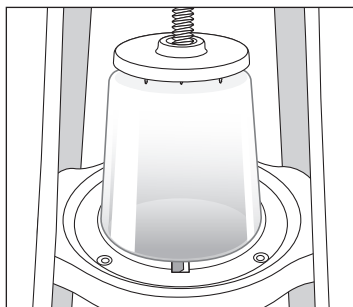


ご使用方法

4. 小ハンドルを反時計方向（左方向）に強く回して、氷ストッパーのビスをくい込ませる

- ・くい込みにくいときは、氷ストッパーを押し付けたまま数分間保持して、確実に固定してください。

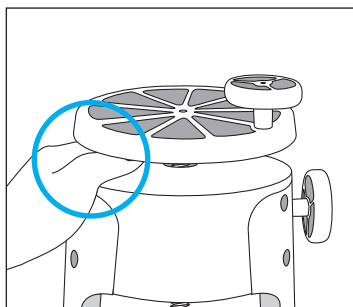
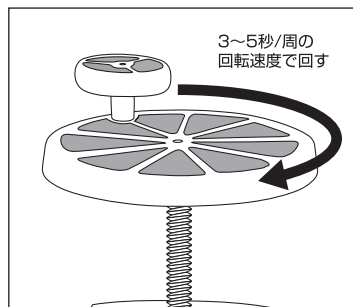
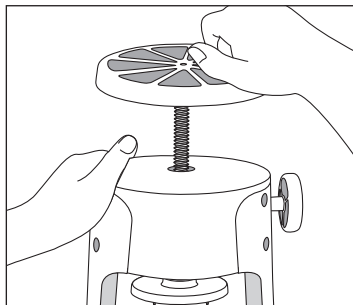
注意：刃先・氷ストッパーのビスに触れないように注意してください。



5. グリップを握って、大ハンドルを時計方向（右方向）にゆっくり回して氷を削ります

- ・安定して氷を削るために本体の押え位置に手を添えて行ってください。
- ・フワフワに削るためには、大ハンドルを3～5秒/周の回転速度で一定に回してください。
- ・大ハンドルを下に押すと削り具合に影響しますので、グリップを軽く握って、下に押さないでください。

注意：大ハンドルの下に手を入れないようにしてください。手が挟まる恐れがあります。



⚠ 注意 刃物を装着した製品です。取り扱いや保管には十分ご注意ください。

取り扱い上の注意

本体

- 氷以外のものは削らないでください。
- 変形や破損、異常箇所があるときは使用しないでください。
- 分解したり、修正したり、改造をしないようにしてください。
- 不安定な場所での使用は避けてください。ケガの原因になります。
- 水滴が落ちても差し障りのない場所で使用してください。
- 幼児だけの使用は危険です。大人が使い方を教え、一緒に使うようにしてください。
- 専用の製氷器で作った氷以外は使用しないでください。
- 氷を出し入れするときは、刃先・氷ストッパーのビスに触れないように注意してください。
- ハンドル類が回らない・動かないときは、無理に動かさないようにしてください。故障の原因になります。
- 小ハンドルから手を離して、主軸・氷ストッパーが下がる場合は、付属の六角レンチを使用して氷押し調節ネジを締め込んで下がらなくなるまで調整してください。
- 主軸・氷ストッパーを上げている状態で、大ハンドルを回さないでください。氷ストッパーが不意に下がりケガをする危険があります。
- 氷の固定は確実にしてください。氷が飛び出す原因になります。
- 持ち運ぶ時は刃体・氷ストッパーのビスに手など触れないように注意してください。
- 本体に直接水をかけないようにしてください。サビ・故障の原因になります。
- 食器洗浄機や食器乾燥器には使用しないでください。変形の原因になります。
- 乳幼児の手の届かない安全な場所に保管してください。
- 火のそばに置かないでください。
- 本器は家庭用として製造されているため、業務用として使用しないでください。

製氷器

- 製氷器を冷凍庫に入れる際は水平な状態を保ってください。
- 製氷器から氷を取り出すときは、必ず流水で氷を溶かしてください。
- 氷を製氷器カップから取り出す時に叩かないようにしてください。破損の原因になります。
- 冷凍庫から取り出したばかりの氷に触らないようにしてください。ケガの原因になります。
- 食器洗浄機や食器乾燥器には使用しないでください。変形の原因になります。

お手入れ方法

- 初めて使用する時は食器用洗剤で洗ってください。
- 氷受け板・氷ストッパーは使用前に掃除をしてからご使用ください。
- 掃除するときは、必ず手袋をはめておこない、刃体・氷ストッパーに触れないように注意してください。
- 氷受け板を掃除するときは、必ず反時計方向に拭くようにしてください。
- 使用後は柔らかい布かスポンジに洗剤を付けてよく洗い、乾いた布で水分を拭き取ってから乾燥したところに収納してください。

刃体に関する注意

- 大変鋭利ですので直接に触れないでください。
- 取り外しや調整はできません。
- ステンレス製ですが、サビを防ぐために使用後は水分を拭き取ってください。
- 破損した場合は使用を中止してください。

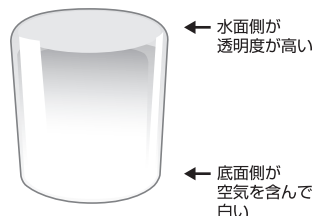
ご使用方法

氷を作る

1. 製氷器 カップを洗う

- ・本体に付属の専用製氷器で作った氷を使用してください。
- ・フワフワな食感のかき氷を楽しんでいただくためには、透明度の高い氷でかき氷を作ることが効果的です。水面側に透明度の高い氷を作るため、専用製氷器にフタはありません。

注意：製氷器本体・製氷器カップを洗うときは、食器洗浄機や食器乾燥器を使用しないでください。変形の原因になります。

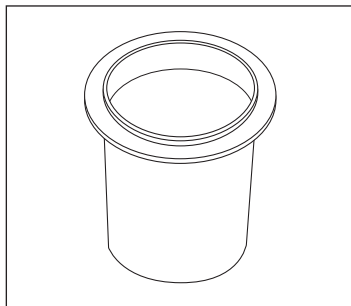


2. 水を製氷器 カップの内側の線まで入れて製氷器 本体に製氷器 カップをセットして冷凍庫に入れる

- ・製氷器カップの内側の線までで容量650mlになります。

注意：製氷器カップの内側の線より多く水を入れないでください。本体に氷を固定できなくなります。

- ・氷になるまでの目安時間は、冷凍庫の性能によりことなりますが、約8～12時間かかります。
- ・水道水でも透明度の高い氷を作ることができますが、より透明度を高くするには、ミネラルウォーターを5分間沸騰させて常温まで冷ましてから、製氷器カップの内側の線まで入れて、冷凍させます。急速冷凍は避けて、ゆっくり凍らせてください。

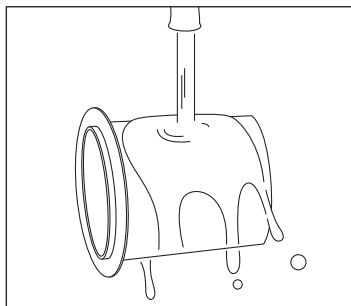


3. 冷凍庫から製氷器を取り出し、製氷器 本体から製氷器 カップを流し外して製氷器 カップの側面に流水で、氷を溶かしてから取り出す

- ・冷凍庫から取り出してすぐの氷(白色で硬い状態)は削らないでください。フワフワな食感のかき氷にならず粉のようなかき氷になり、また刃体の破損の原因になります。流水で氷表面がとけた状態になってから削ることで、フワフワなかき氷になります。

注意：冷凍庫から取り出したばかりの氷に触らないようにしてください。ケガの原因になります。

注意：氷を製氷器カップから取り出す時に叩かないようにしてください。破損の原因になります。

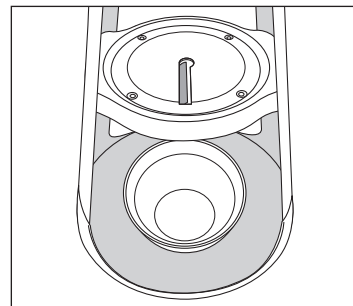


ご使用方法

かき氷を作る

1. 皿を底板の上に置く

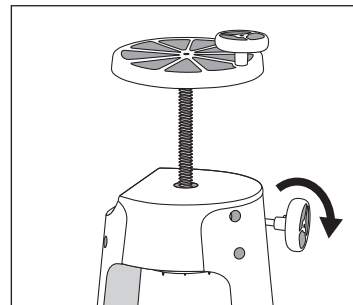
- ・刃体が自分に近い側になるよう本体の方向を調整して、刃体の下に皿を置きます。



2. 小ハンドルを時計方向（右方向）に回して、氷ストッパーを一番上まで上げる

- ・小ハンドルから手を離して主軸・氷ストッパーが下がる場合は、氷押え調節ネジを締め込んでください。

注意：主軸・氷ストッパーを上げている状態で、大ハンドルを回さないでください。氷ストッパーが不意に下がり、ケガをする危険があります。



3. 氷ストッパーが落ちないことを確認した後、氷を氷受け板の中心にのせる

- ・製氷器カップの水面側を氷受け板のガイドラインの内側にのせてください。氷がはみ出すと削れません。

- ・氷をのせるときは、氷の側面を持ってください。
- 注意：氷をのせるときは、刃先・氷ストッパーのビスに触れないように注意してください。

